

教本2級認定講習会 開催報告

参加者Aさん：3級も受けずに、2級を受けたので不安でした。内容が濃く普段使っていない頭がパンク寸前でした。とくに3分スピーチが難しく人前で自分の言葉で伝えたい事を言うのは、大変でした。でもとても楽しくあつという間の1日でした。勉強になりました。

ありがとうございました。



参加者Bさん：何年か前に2級を受講し、次は1級をと思いましたが、自分が余りにも勉強しなくて、来月1級を受ける前にもう一度と思い受講しました。初めて学ぶ様に思われ、教本を学ぶ良さを強く感じました。級にかかわらず、教本を学んでいきたいと思えます。有難うございます。



講師/芝田豊海 一月二十六日に本苑にて「教本2級認定講習会」が行われました。本部指示により一日の講習で各級取得できる様になり、その反面ハードなスケジュールでしたが、宣教部の工夫で開始時間を早めたり、昼食時間の短縮などされました。また、各自弁当持参での休憩は教義とのメリハリがあり楽しい時間でした。受講生のみなさま長時間ご苦労さまでした。

参加者Cさん：自分の腹におさまるまで時間がかかると思いました。一度だけではなく何度も教本を読んで、講習会に参加する事が大事だと思えました。忘れる事も多いですが少しづつでも前に進めるように頑張りたいです。



参加者Dさん：み教えを学んでこれからの生活に神と共に生活していくということを心に深くきざみ、ご神業奉仕、朝夕拝を大切にしていきたいと思えます。



七草粥のための摘み菜
(玉串松の畑でハコベを採集)



新苑になり2度目の七草粥が皆様のご協力のおかげで無事に終わることができました。ありがとうございました。前日より第2ブロックの皆様にご協力を頂き食器などの洗浄、七草粥の材料の下準備、会場設営など順調に準備ができました。会場設営に関しては昨年のを役員の方々が覚えて下さりスムーズに行えました。当日はガス炊飯器が故障してしまうトラブルに見舞われましたが第2ブロックの方々の機転により電気炊飯器で2度に分けて炊いて頂きおにぎりも無事にできました。七草粥も70名分を40名と30名に分けて時間差で作出来立てを食べて頂くことができ良かったと思えます。プリンやお漬物に浅漬け、はこべらの用意や準備など色々な方々にご協力を頂き心よりお礼申し上げます。三河本苑役員 高井

◆本苑役員・直心会員による
工夫を凝らした「七草粥」

令和七年春季大祭奉納冠沓句の募集

【冠句題】
・三河には
・真心の
・堂々と

【沓句題】
・宝物
【べ切】四月二十日(日)
(本苑四月月次祭)
※一人五句まで 芸術部

三月添釜
ひなまつり茶会
桃の節句をお楽しみいただき、一服を差し上げます
茶道部/直心会第三ブロック

三月の行事
●一日(土)～二日(日)
東海サミット(岐阜主催)
●十六日(日)
本苑三月月次祭
女性祭員
・ひな祭り茶会
・全体会議
・愛善歌奉納大会練習
大祭展示用ちぎり絵作成
(月次祭終了後)
●二十九日(土)～三十日(日)
祭式三・四級認定講習会
●四月の行事
●二十日(日)
本苑四月月次祭
・愛善歌奉納大会練習
●二十七日(日)
誠心会万祥殿献芳

三河本苑公式LINE

↑ コチラから
本苑だより更新中

成人おめでとうございます！



米津支部	高橋	咲季
米津支部	鈴木	華奈子
米津支部	横井	聖
吉良支部	鈴木	将斗

本部直心会会長(右)と成人者の高橋 咲季様

渥美分所	上村	真
渥美分所	二村	優那
刈谷分所	松永	宗達
碧南分所	大塚	海音
碧南分所	粟津	夕姫子



本苑長と直心会副会長と一緒に

こころの帖

出口 直日

物慾さえみちれば、それで、人生は楽しとする人もいますし、それだけでは、なにかさみしいとする人もいます。世の中は、大きくこの二者に分けることができるのではないかと、とおもうことがあります。

インテリといわれている人の中にも、この二者があるようで、ものごとを損得だけで判断し、精神的なものについては、「果(くだ)ものをもらった犬」のように無関心でいる人もいます。自分の内面の問題でありながら、遠いところのことに感じている人もいます。

靈魂の恩頼

(大正十四年十二月)「日出庵先生之旧稿」p五十六より

自分のことになったら誰でも一生懸命やり出すものだ。金銭の問題などでも、その人その人に出納をやらせて各自の用を弁じさせたら、なかなか経済的にやる、が他ら出してやるとなると直接に自分の腹が痛まぬので、道具等の扱いに於いても万事不経済なり勝ちだ。何の仕事でもそれぞれの人に委任して責任を持たして行なわせなければ真の能率

はあがるものでない。ただ上に立つ人に、よほど人を任ずる明がなくては万事休すである。

○ 理知が先にたつと、局部的瞬間的には一寸目が利くが、それが却(かえ)って大局的永遠的の計の上からは妨害になる場合が多い。少しくポーツとして、どこに智慧が働いているのかと思うような人が、実は

知らず知らず惟神にかなつた行動をとっている場合が往々ある。

理知的な人はどうも万事あせり気味であつて、是非ない真善への為の苦しき過程をでも、之を避けんとして人間的無理をするから、却つてへまをやる場合が多い。

近代の医学などで云うものも、理論は一通り立っているが、実際に当つてもその応用は随分難しいものだが、理知的の人は棄てておけば自然に癒(い)える病気をでも、いろいろと要らぬ

外的治療を試みた結果、却つて悪(あ)しくしてしまうこともある。すべて体験に伴わない学問は却つて障害になるばかりで、真に身につくものでない。

こゝ

ひと時のこぼれ

17

ある「老夫婦」の会話
ある日のお通夜でのお話です
遠方より老夫婦が来て参列した帰り際に、旦那さんが奥さんに「トイレに行くかん？」と尋ねたしきに言うが、奥さんは耳が遠くて四・五回目でやっと気づき奥さんは、旦那さんの口元に耳をあてた

三河豊田支部 杉山 孝 あ、本当？

私の思い

母が亡くなる前の6か月の間で教えてもらった言葉が「あ、本当？」でした。病室で妻が来るまで仕事帰りに自分がつきそったのですが、ほとんど会話ない中少しでも自分が何か言う「あ、本当？」と答えたのです。いい言葉だなと思い、いつの間にやら自分も使っていました。

すると自分自身に変化が起っていました。どんな変化かという、あまり腹が立たなくなっていたのです。また何事も良い方向に考える様になっていました。人から何か言われても「え、嘘！」ではなく「あ、本当？」

と返すことで何かが変わるかという「？」ですが確かに自分は変わったという気がしています。尊師さまのお言葉に「腹が立つのは(吾はえらい)と思ってるからだ」があります。この言葉に近いのかも知れませんが「あ、本当？」が自分を変えてくれたのは事実です。考えると相手を否定することなく、すつと受け入れることが出来始めていたのかも知れません。

自分自身が変われたこの母からの「あ、本当？」をこれからも気負うことなく使えればいいなと思っています。

旦那さんに「トイレかん？」
「分かった」
「ほんなら行つといでん！ あんた」と言った
旦那さんは「わしじゃない」
「おまえだよ」と言い返した
三々四分の会話ですがそこには、互いに気づき合う微笑ましい姿をみました
わたしも、こんな老夫婦になりたいと思いました